

令和元年度第2回 札幌市国民健康保険運営協議会の概要

1 日 時

令和2年（2020年）2月12日（水曜日）午後6時～午後7時半

2 場 所

札幌市役所 地下1階3号会議室

3 出席者

(1) 運営協議会委員

14名（別添のとおり）

(2) 事務局

保険医療部長、保険企画課長、保険事業担当課長、国保健康推進担当課長ほか

4 審査事項

議題第1号 令和元年度国民健康保険補正予算について

ア 説明の趣旨

- ・道の算定した保険給付見込額を本市の当初予算に計上しているが、この見込み額を上回り、不足が生じる恐れがあるため9億5千万円を増額補正する。
- ・本市の1人当たりの医療費が高い傾向にあることが不足が見込まれることとなった主な要因であると考ええる。
- ・財源については、道から普通交付金として全額交付される。

イ 主な質疑

Q 9.5億円のうち退職者分の割合はいくらか。

A 退職者分については0.1%程度

ウ 協議結果

了承された

議題2号 令和2年度国民健康保険会計予算について

ア 説明の趣旨

- ・予算総額は前年度予算より 14.7 億円減の 1,838 億円となっている。
- ・被保険者数は約 1 万 1 千人、世帯数で約 5 千世帯の減少を見込んでいる
- ・1 人あたり医療費は前年度から 1 万 2 千円増の 42.6 万円を見込んでいる。
- ・基金の活用について、北海道財政安定化基金への拠出金として 2.6 億円を計上した。また、特定健診受診率向上のため A I を活用して受診勧奨を行う事業について約 5.9 千万円に予算を拡充。
- ・保険者努力支援制度による今年度の歳入額は総額で 7 億円、来年度予算においては約 2 千万円減の 6.8 億円と見込んでいる。
- ・国の交付金が増加したことなどにより、来年度の 1 世帯当たりの平均保険料は、前年度予算と比べ 2,633 円 (1.75%) 減の 147,839 円と見込んでいる。介護分は、前年度予算と比べ 226 円減の 26,819 円と見込んでいる。

イ 主な質疑

Q A I を使うことと一般的な手法とはどこが違うのか

A 一般的な受診勧奨として、ただ単に手紙や電話で受診してくださいというところを行っていたが、A I を使い被保険者の性格を 4 つのパターンに分け、それぞれの性格に応じたメッセージを送ることによって受診してみようという気持ちになっていただくことを狙いとした取り組みをしている。

Q SNS を考えていると聞いた。

A L I N E を使って始めているところ。

ウ 協議結果

了承された

5 報告事項

特定健診等実施計画の評価結果について

- ・平成 30 年度の特定健診の受診率は前年度比 2.2 ポイント上昇し、22.4%となっている。
- ・40 代 50 代の比較的若年層の受診率が低いこと、65 歳以上の高齢層の受診率が低いこと、医療機関の受診はあるけれど特定健診の受診がないという人の割合が多いことの 3 つが大きな課題として挙げられる。
- ・A I を活用した受診勧奨で未受診者約 16 万人にダイレクトメールを送ったところ

10%以上の方が受診された。

- ・今年度から、健診項目に尿酸とクレアチニンを追加、1月下旬からLINEを使って特定健診を受けられる医療機関の検索や健診項目を調べられるような事業を始めた。
- ・来年度は、AIを活用した受診勧奨を基金を活用して大幅に拡充したい。
- ・特定保健指導の平成30年度の実績は8.2%となっている。40代50代の実施率が低く、特に男性は女性の実施率に比べて低いことが課題として挙げられる。
- ・今年度から、特定保健指導の委託医療機関を拡大すべく、医療機関に対して文書や電話による個別勧奨、住民集団健診において健診当日に行う初回面接分割実施を取り入れた。
- ・来年度は委託医療機関数や初回面接分割実施の会場数の拡大、未利用者の勧奨の充実に重点を置いて実施したい。